平成22年度宮古群島病害虫発生予報第3号(6月予報)

Ⅰ　6月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気　　温	降　水　量	日照時間
高い(多い)	30	40	20
平　年　並	40	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成22年5月28日付沖縄気象台発表･沖縄地方1か月予報)

平均値

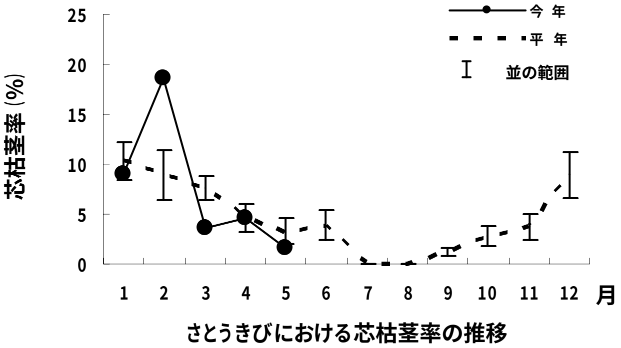
	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	27.1	29.8	25.0	176.8	199.5

(沖縄気象台発表･統計期間1971～2000･資料年数30年)

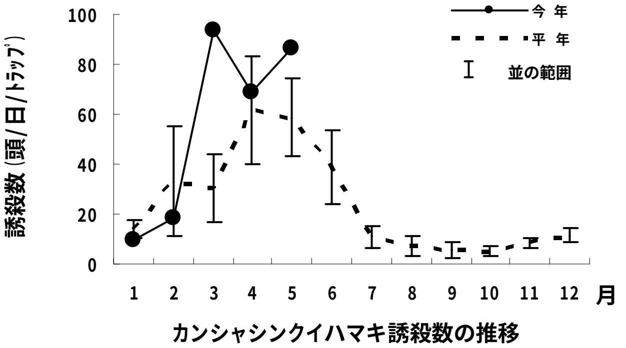
Ⅱ　6月の発生予報および防除上の注意事項

1　さとうきび

(1) メイチュウ類
発生程度　：　並
予報の根拠
a　5月中旬の調査の結果、春植･株出圃場における芯枯茎率は1.6%(前年2.2%、平年3.3%)とやや少なかった。
b　5月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺数は、86.7頭(前年83.5頭、平年58.6頭)とやや多かった。



さとうきびにおける芯枯茎率の推移



カンシャシンクイハマキ誘殺数の推移

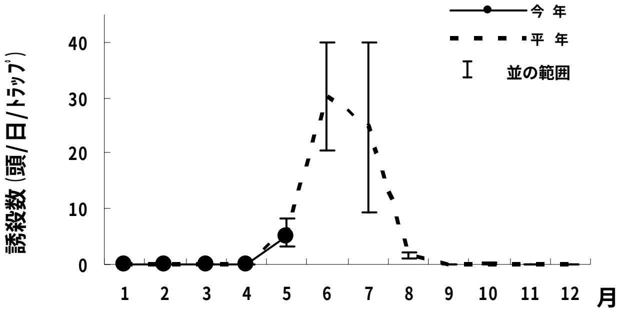
＜防除上注意すべき事項＞
a　葉裏や葉鞘でふ化した幼虫は株元近くへ移動し、芽や根帯から株の内部に食入して生長点を加害し、芯枯れを引き起こす。
b　加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点をおく。
c　培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

(2) アオドウガネ

発生程度 ： 並

予報の根拠

5月の予察灯への日当たり誘殺成虫数は4.9頭(前年4.4頭、平年5.7頭)と平年並であった。



アオドウガネ成虫の発生推移

＜防除上注意すべき事項＞

a 5～7月は成虫の発生時期にあたり、特に6月下旬から7月上旬は成虫の発生ピークであることから、誘殺灯の保全・管理を徹底する。

b 6～7月は幼虫の防除適期(1～2齢期)にあたるので、例年被害の多い地域では防除適期を逸しないように薬剤を施用する。

2 マンゴー

○ 果実肥大～成熟期の病害虫防除対策

a 5月中旬の調査の結果、ハダニ類の葉当たり虫数は0.3頭(前年2.1頭)、チャノキイロアザミウマの葉当たり虫数は0.1頭(前年0.3頭)であった。また一部の施設で炭疽病、コシロモンドクガの発生が見られた。

b 罹病した葉や枝、摘果した果実等は炭疽病の伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

c 不要な新梢はチャノキイロアザミウマやドクガ類の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。

d 梅雨明け後、袋がけ作業終了とともに天井ビニールを取り外し、通風採光に努める。